

深川市いのち支える自殺対策行動計画【概要版】

◎計画の策定の背景と目的

(1・2ページ)

この度、平成 28 年に改正された自殺対策基本法において、全ての市町村に「地域自殺対策計画」の策定が義務付けられたことから、これまでの取り組みを発展させた全庁的な取り組みとして自殺対策を推進するため、「深川市いのち支える自殺対策行動計画」を策定します。

◎計画の位置づけ

本計画は、「第 5 次深川市総合計画」を上位計画とし、第 3 期北海道自殺対策行動計画をはじめ、本市の自殺対策に関連する他の計画との整合性を図ります。

◎計画の期間

2019年度（平成 31 年度）から 2023 年度までの 5 年間を計画期間とします。

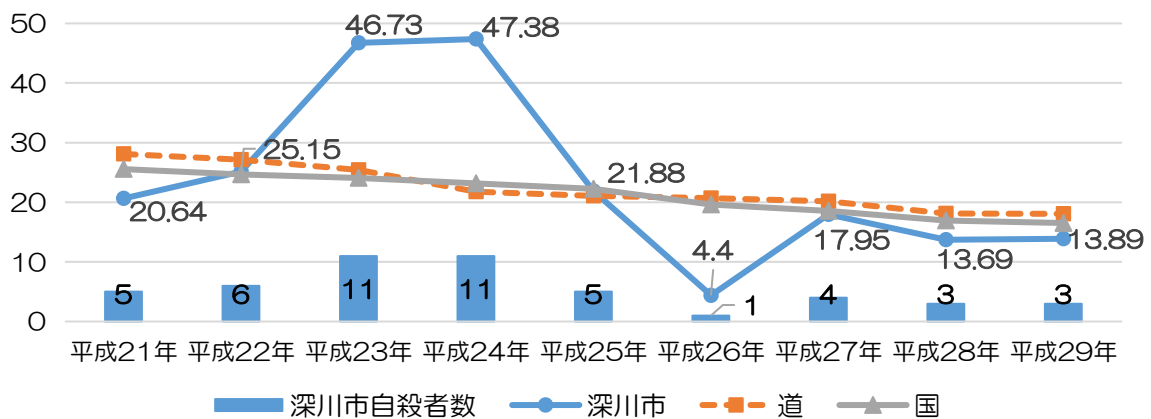
◎計画の数値目標

	実績	目標	
	2015 年	2023 年	2026 年
自殺死亡率（人口 10 万対）	9.1	7.3 (-20%)	6.4 以下 (-30%)

深川市の現状

平成 24 年をピークに、平成 26 年以降は道、国の自殺死亡率を下回っていますが、毎年、自殺で亡くなる方がいます。

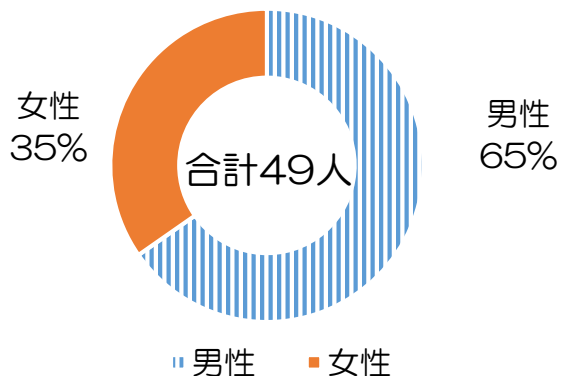
(4ページ)



(地域における自殺の基礎資料)

深川市の現状

◎自殺者の男女比（平成 21 年～29 年合計）（5～15 ページ）
自殺者数の男女比は、男性が女性の約 2 倍となっています。

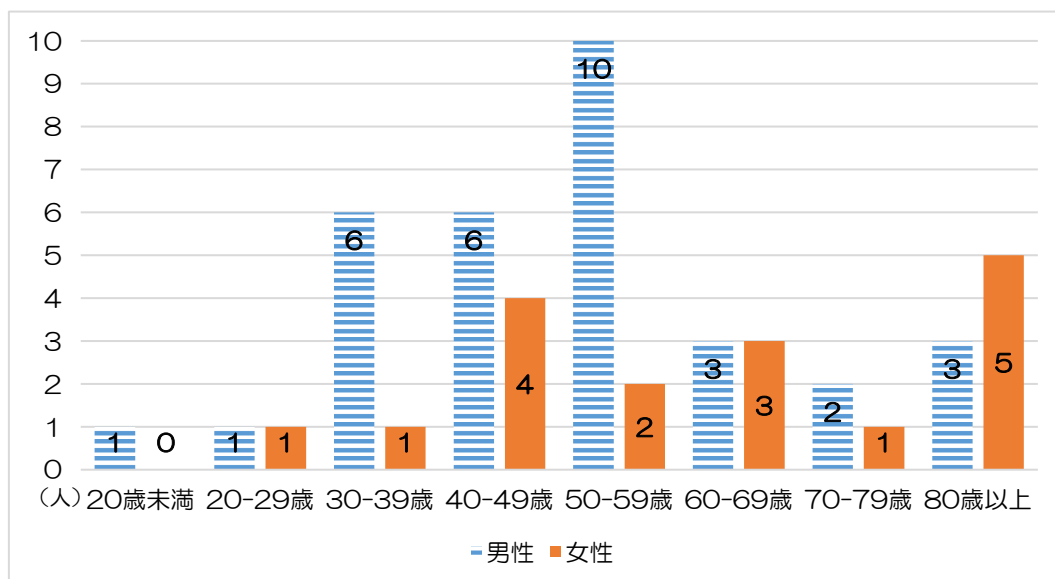


（地域における自殺の基礎資料）

◎年齢階級別自殺者数（平成 21 年～29 年合計）

男性は、30 歳代、40 歳代及び 50 歳代の働き盛り世代に自殺者数が多い傾向があります。

女性は、男性ほど年齢階級別の差はありませんが、40 歳代と 80 歳以上の方の自殺者数が多くなっています。



（地域における自殺の基礎資料）

自殺の実態からみる特徴と重点的に取り組む対象

◎ 深川市の自殺の特徴

(16ページ)

- ◆ 自殺者数の男女比は、男性は女性の約2倍
- ◆ 男性は30歳代から50歳代の自殺者数が多い
- ◆ 女性は40歳代、80歳代以上の自殺者数が多い
- ◆ 自殺者の職業では無職者が多い
- ◆ 原因・動機は「健康問題」「経済・生活問題」「家庭問題」が多い
- ◆ 自殺者の7割近くは独居ではなく、同居人がいる

◎ 深川市において重点的に取り組む対象

- ◆ 30歳代から50歳代の男性
- ◆ 40歳代、80歳代以上の女性
- ◆ 無職の男女
- ◆ 「健康問題」「経済・生活問題」「家庭問題」を抱える男女
- ◆ 遺された家族・親族

「ゲートキーパー」とは

ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことです。自殺対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ、支援することが重要です。一人でも多くの方が、ゲートキーパーとしての意識を持ち、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが自殺対策につながります。

ゲートキーパーの役割

気づき

家族や仲間の変化に
気づいて声をかける

傾聴

本人の気持ちを
尊重し、話に耳を傾ける

つなぐ

早めに専門家に
相談するよう促す

見守り

あたたかく寄り添い
ながら、じっくり見守る

(21ページ)

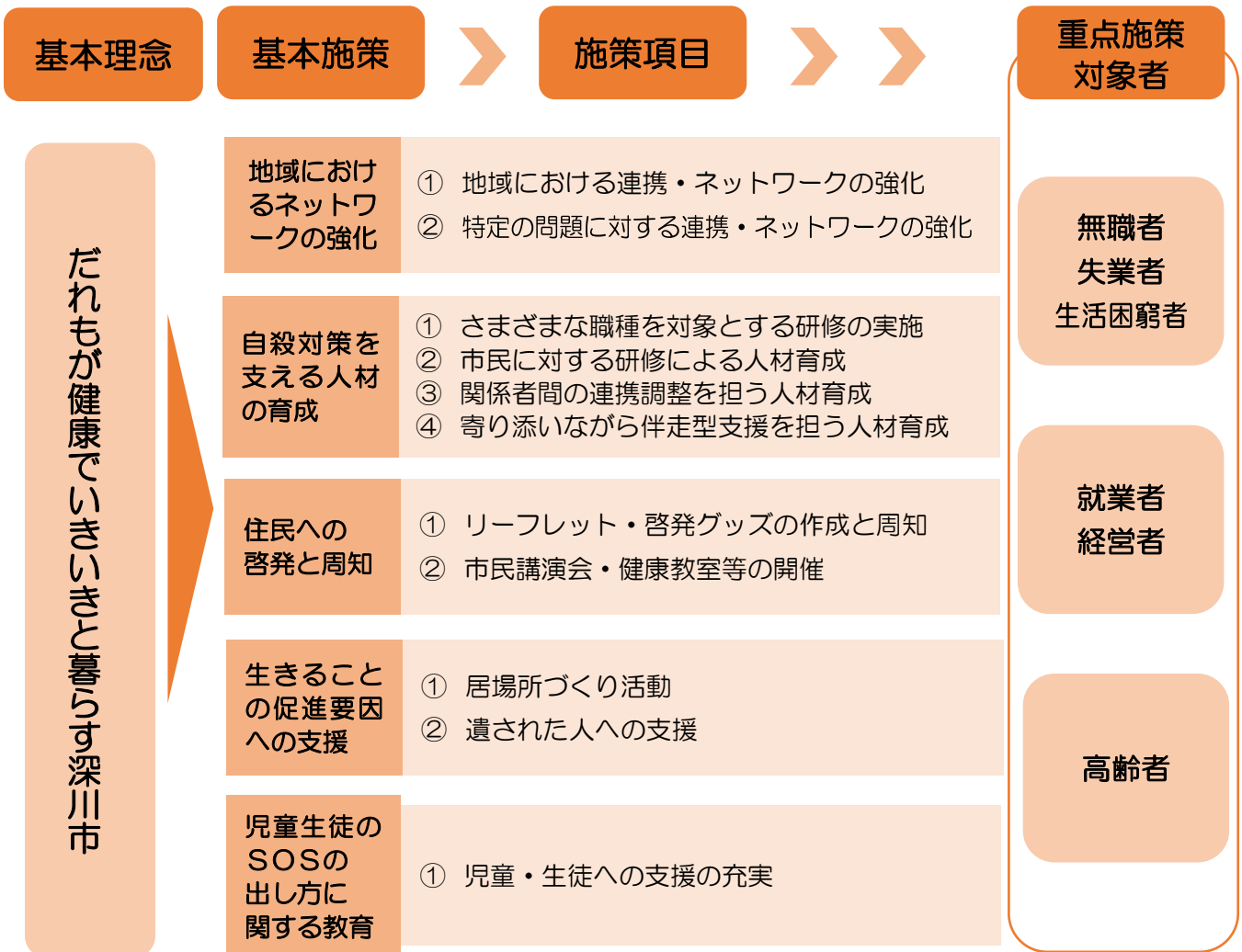
いのち支える自殺対策における深川市の取り組み

(17ページ～)

「誰も自殺に追い込まれることのない社会」を実現するためには、地域における「生きる支援」に関連するあらゆる取り組みを総動員して、「生きることの包括的な支援」として推進することが重要です。

このため、本市は、保健・医療・福祉や教育、労働・産業等に関する各部署と連携し、市内の多様な既存事業を「生きる支援関連施策（全 120 事業）」と位置付け、より包括的・全庁的な自殺対策を推進していきます。

また、市内関連部署からなる「深川市自殺対策推進連絡会議」にて、それぞれの役割を明確化したうえで、総合的、横断的な自殺対策に向けた検討・協議を進めます。



生きる支援関連施策（全 120 事業）

各課・各組織が実施している既存事業に自殺対策の視点を加え、部署間の連携により充実した自殺対策を推進